

国語

- ・試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- ・試験時間は50分です。
- ・解答用紙はこの問題冊子の中央にはさんでいます。
- ・試験のはじめに、問題冊子の表紙と解答用紙に受験番号を記入しなさい。
(名前は書いてはいけません)
- ・解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- ・字数制限のある問いでは、句読点や記号も一字と数えます。
- ・質問などがあれば静かに手を上げて知らせなさい。

受験番号

受験番号			

① 次の――線①～③のカタカナは漢字に直し、④・⑤の漢字は読みをひらがなで書きなさい。

- ① 明日のジュンビをしてから寝よう。
- ② タンチヨウな毎日に退屈する。
- ③ 人々の間に語りつがれてきたデンセツ。
- ④ 桃太郎が鬼を退治する。
- ⑤ 台所に人の気配がした。

② 次の語句・文法の問題に答えなさい。

問 一次の各文中の の言葉は、それぞれ後のどこにかかりますか。一つ選び、記号で答えなさい。

- ① **教室で** ア制服から イ体操服に ウ着がえるなり
エグラウンドに オ飛び出した。
- ② さつき **通り過ぎた** ア信号の イある ウ大きな
エ交差点を オ左に カ曲がれば キ図書館だ。

問二 次の①～③の()に入る言い方として、あ
うの中に明らかにふさわしくないものが一つずつあ
ります。記号で答えなさい。

① 明日の午後、学校に お客様が ()。

- あ 来ます
- い 来られます
- う いらつしやる

② お客様を 私が ()。

- あ ご案内する
- い ご案内します
- う 案内なさいます

③ お客様、どうぞ こちらに ()。

- あ おすわりください
- い おすわりしてください
- う おすわりになってください

③ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私は子どもの頃、誰もが「平和な世界」を目指すのは
あたりまえのことだと思っていました。もちろん、戦争
は世界のあちこちで行われていましたが、日本はとも
平和のように見えました。また、世界の戦争に反対して
いる人たちも大勢いましたし、学校の先生や親は「その
うちこういう平和を望む人たちの意見が通って、本当に
争いのない世界が訪れるだろう」と言っていたのです。
私もそれを信じて、「早く世界中が日本のように平和に
なればいいのに」などのんきに考えていました。

《X》、平和は「自然にしておけばそのうちやって
来るもの」などではなかったのです。おとなになってよ
うやく、世の中には「争いでしかものごとは解決できな
い」と考えている人や、心の中では「本当は戦争になっ
てくれたほうがありがたい」と思っている人さえいるこ
とがわかってきました。

私は、子どものときにもつといろいろなことを知って
おくべきだったな、と反省しています。学校の先生や親
が「世界中の人が平和を望んでいます」と言ったとして
も、① すぐにそれを信じたりせずに、「本当かな。そう
思っていない人だっているんじゃないかな」と疑うべきで

した。そして自分でいろいろ調べて、それとは反対の意見を探したり読んだりしておくべきでした。

《Y》、いまの若い人たちには、「まずは自分で調べてみましょう」と言いたいです。「ひとつの意見を見たり聞いたりしたとき、それをそのまま信じる前に、必ずその反対の意見がないか調べたほうがよい」ということです。私は、それこそが平和につながる道だと思っています。

むずかしい問題でなくてもかまいません。《Z》、

「いまこのプリンセス映画が大ヒット、すべてがすばらしいと世界が絶賛」という記事を見たら、誰もが「面白そう！ 私も早く見なきゃ」と思うでしょう。でも、必ず異なる意見もあるはずです。数は少ないかもしれませんが、**A**」といった反対意見を探して、それにも目を通す。そして実際に自分の目で見て、考えるのです。「やっぱりすばらしかったじゃない」でもいいし、「たしかにあのプリンセスはかわいいけれど、恋人の言うことばかりきくのはおかしい」と思ってもいい。

こうやっていくつか種類の違う意見に目を通し、最終的には自分で考え、「私はこう思う」と決める。これが大切です。その「違う意見」は、「異論」「反論」と呼ばれることもあります。

幸いなことに、私の子ども時代とは違い、いまはインターネットが発達しています。異論、反論を探すのも、昔よりずっとラクになっているはずですよ。

その場合、探すコツは**B**」にまどわされないこと。大臣や大学教授だから正しい意見、いい意見ということはありません。それよりも大切なのは、② しっかりと理由や根拠が記されているか、ということですよ。

たとえば先ほどの「プリンセス映画」でもただ「かわいい」「おかしい」ではなくて、「登場人物たちのファッションが最先端なのでこの映画はすばらしい」「女性も自分の意見をはっきり言おう、という運動は1960年代のアメリカで盛んになったが、この映画はその正反對の内容だ」というように、理由や根拠がしっかり述べられている意見を探すのです。

そして、最終的に「私の意見はこうだ」と決めるのは、あなた自身ですよ。「どうして？」ときかれたときに、「あの本にあったから」「親が教えてくれたから」ではなく、「こういう理由で私はこう思うのです」ときちんと自分の言葉で説明できるようにしておくこと。

このように「いつも種類の違う意見を探しながら自分で決める」「意見の理由や根拠を大切にする」という姿勢が身につけば、万が一、世の中で「もう平和はムリ！」

戦争しかない」といった声が大きくなったときでも、「ちよつと待つて。それ本当？」と必ず冷静に考えることができると思うのです。

もちろん、こういう私の意見だつて、必ずしも正しいかどうかはわかりませんよ。「え、ちよつと違うんじゃないかな」と思う人がいてもいいのです。そうやって疑いを持ったなら、ぜひ「この人と違う意見を言っている人はどこかにいないかな」と異論、反論を探してみてください。ささい。

誰かに言われたことをそのまま信じない。たとえ偉い人、力を持っている人の言葉でも、「おかしいな」と思ったら疑つてみる。私がおすすめたのは、この態度です。

（香山リカ『世界を平和にするためのささやかな提案』より 一部改変）

問一 《X》《Z》に入る言葉としてふさわしいものを、次の中から一つずつ選び記号で答えなさい。

- あ だから い たとえば
う なぜなら え ところが

問二 — 線①「すぐにそれを信じたりせずに、『本当

かな。そう思つてない人だつているんじゃないかな』と疑うべきでした」とありますが、筆者がこのように言うのはなぜですか。次の（ ）に合うように、本文の言葉をそれぞれ十字以内でぬき出しなさい。

大人になつてから、現実には、世界中のだれもが（ 1 ）いるというわけではないことがわかり、平和とは待つていれば（ 2 ）というものではないと気づいたから。

問三 A に入る言葉として最もふさわしいものを、

次の中から一つ選び記号で答えなさい。

- あ プリンセスは、どんな境遇きやうぐうの中でも希望を失わない。その姿に見る人すべてが勇気づけられる
い プリンセスの豊かな表情がアニメーションでリアルに描かれる。背景や音楽もすばらしい
う プリンセスの魅力は、心の美しさだ。だからこそ最後に幸せをつかむことができた
え プリンセスがあまりに素直すなおすぎる。もつと自分で考えて行動する強さがあつてよかつた

問四

B

に入る言葉として最もふさわしいものを、

次の中から一つ選び記号で答えなさい。

あ いつ言っているか

い だれが言っているか

う どこで言っているか

え 何を言っているか

問五

——線②「しつかりした理由や根拠」とありま

すが、プリンセス映画について、しつかりした理由

や根拠のある意見の例を本文中から二つぬき出し、

それぞれ初めの五字を答えなさい。

問六

~~~~線部「ひとつの意見を：そこそが平和につ

ながる道だと思っからです」とありますが、これと

同じような事を述べている一文を本文中から探し、

初めの五字を示しなさい。

問七

次の中で本文の内容に合うものには○を、合わないものには×を書きなさい。

いものには×を書きなさい。

あ  筆者が子どもころは、世界中の誰もが平和な世

界を目指していたが、現代においてはそうではない

人が増えてきた。

い  偉い人や力のある人の言うことをうのみにしては

ならないが、親や学校の先生の言うことであれば、

無条件に信じていることができる。

う  インターネットで調べるときは、さまざまな人の

異なる意見を探し、それらの理由や根拠をみきわめ

た上で、自分自身で判断することが大事だ。

え  プリンセス映画には、女の子は自己主張しないほ

うがよいというメッセージがこめられているので、

見るべきではない。

お  かりに自分の周りの大多数の人が「戦争をするし

かない」と言い出したとしても、自分は流されるこ

となく反対の意見を探すべきだ。

#### 4 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

サンタ問題——サンタクローヌはいるかいな。いつまで信じていたか。いないことにいつ気づいたか。そのときどうしたか。それでその人のだいたいのがわかると思う。既に保育園時代にサンタなんてほんとはいないんだといつてのけた子がいて、小学校の高学年ともなればサンタがいないことを知りつつ親につきあいサンタごっこをする子がいて、かと思えば中学生になってもサンタが来るのを待っている夢見がちというよりは調子のいい子がいて、あるいは生まれてから一度もサンタから贈りものなどしてもらったことのない子がいて。そういういろいろな子供たちがごちゃ混ぜになっていたのが地元の公立小中学校に通っていた頃のクラスだった。

(中略)

幼い頃、うちにもサンタは来た。正しくいうなら、サンタだけが来た。クリスマスにつきもののローストチキンだとかケーキだとか、そういうものを食べた覚えはない。いつもと同じように店が終わってから《A》《家族の食事を済ませた。ツリーはあつたけれど、家にではなく、店にだった。私と弟は《B》《光るツリーを店で見て、それでなんだかうれしかった。だから、不満を

いうつもりはない。人の家とくらべても何の意味もない。これはうちのサンタ問題なのだ。

小学校に上がった年のクリスマスが転機だった。私はピアノが欲しかった。

学校の音楽室にあるピアノの音、銀色に転がる玉みたいな音、私はそれが好きだった。音楽の時間はピアノの音だけを《C》《聴いた。拾い集めるそばからこぼれて消えていってしまう音に、できることならいつまでも触れていたい。その願いは儂い夢のはずだった。ところが同じクラスにそれを《D》《叶えられる子がいた。ひとりやふたりではない。何人もの同級生が家にピアノを持っていて、それを自由に弾くことができると思ったのは、やはり同じ音楽の時間だった。習ったばかりの歌なのに、誰かピアノで弾ける人、と聞かれると数名の女の子たちが手を挙げたのだ。身じろぎもできなかつた。知らないうちに知らないところで既に振り分けられている——私のお腹でしゅうしゅう音を立てているガスを言語化できたなら、その声を挙げていたかもしれない。生まれつきピアノを弾ける子と弾けない子がいて、<sup>①</sup>私

は後者だった。その事実を認めたくなくて、望みをサンタに託した。

ピアノを欲しがった私に、サンタがくれたプレゼント。

もらえるわけがないと思っていたから、枕元に包みがあるのを見つけたときはびっくりした。びっくりで、がっかりで、しゃっくりが出た。お、と後ろで声がした。父だった。

「お、お、サンタからプレゼントが来てるなあ。なんだ、包みが大きいじゃないか、開けてみな、お姉ちゃん」

嬉々とした声で枕元に近寄ってくる。② 包装を見た

瞬間に、これは頼んでいたものじゃないとわかついたのに、父にはそれがわからないらしかった。

「違うから、これ、頼んでたものと違うから」

しゃっくりが二度続けて出た。

「なんだよ開けてみなきゃわかんないだろ」

「わかるんだって！」

大きな声を出したら、③ 父の目が丸くなった。

「じゃあお父さんが開けてもいいか。びっくりするぞ、サンタは期待を裏切らないんだからな」

そういつて、私と弟の目の前で丁寧に包みを開けていった。たしかに去年までサンタがくれていたのとは比較にならないほど大きな箱だったけれど、ピアノなら箱に入るわけがない。私はこんなに落胆しているのに、包みを開ける父と、それを見つめる弟の眼が《E》光っているのが不思議だった。

中から現れたのは、赤いブランドピアノだった。ただしミニチュアで鍵盤が二オクターブ半しかない。

「どうだお姉ちゃん、ほら、ピアノだよ」  
父がいい、

「うわあ、いいなあ、お姉ちゃんのピアノ、いいなあ」  
弟は心底羨ましそうな顔をした。a 私はふたつのことと悟った。ひとつは、サンタが存在しないということ。

b もうひとつは、④ いつまでも落胆した顔を見せてはいけないということ。保育園の頃に、サンタなんてほんとはいないんだ、といいつのつた男の子を思い出してしまった。なにいつてんの、と私は笑った。c 毎年プレゼントを置いていつてくれるのに、いないわけがないじゃない。それが今ではあの子に謝りたいような気持ちだ。ごめん、サンタはほんとにいなかったんだね。d

私は急いで笑顔をつくり、ありがとう、といった。お父さん、と続けそうになって慌てて、

「サンタさん、ありがとう」

ピアノを持ってきてくれて、とはさすがにいえなかった。玩具のピアノが欲しかったんじゃない。だけど、サンタの正体を知ってしまった今、ピアノはあきらめるしかない。⑤ 持つてきたくても持つてくることのできない

サンタを悩ませちやいけない。

うちはとりたてて貧乏だったわけではない。少なくとも、お金に困っているとは聞かされていなかったし、特に不自由をした覚えもない。でも、大きくなるにつれ、うちにお金があるわけがないというのもよくわかるようになった。うちは小さなうどん屋だった。私が五歳、弟が二歳の頃に父が脱サラして始めたそう。一杯六百円かそこらのうどんや丼を出してレジに入る百円玉。それを集めて私たち家族四人は暮らしている。ピアノが買えるわけはちよつとないだろう。

(宮下奈都『よろこびの歌』より一部改変)

問一 《A》《E》に入る言葉としてふさわしいものを、次の中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| あ | き | ら | き | ら |
| い | び | か | び | か |
| う | あ | つ | さ | り |
| え | う | つ | と | り |
| お | さ | さ | つ | と |

問二 — 線①「私は後者だった」とありますが、ど

ういうことですか。次の中からふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

あ 私は、ピアノを弾く才能に恵まれていた。

い 私には、ピアノを弾く才能がなかった。

う 家にはピアノがあり、幼い頃から習っていた。

え 家にお金がなくて、ピアノを買ってもらえない。

問三 — 線②「包装を見た瞬間に、これは頼んでい

たものじゃないとわかっていたのに、父にはそれがわからないらしかった」とありますが、

I 「私」には「これは頼んだものじゃない」とわかったのはなぜですか。説明しなさい。

II 「父にはそれがわからない」のはなぜだと考えられますか。説明しなさい。

問四 — 線③ 「父の目が丸くなった」とありますが、父のどんな様子を表していますか。次の中から選り記号で答えなさい。

- あ わくわくする様子。  
 い おどろいた様子。  
 う むつとする様子。  
 え 真剣しんけんな様子。

問五 — 線④ 「いつまでも落胆した顔を見せていてはいけない」とありますが、

I 「落胆」と同じ意味の言葉を、ここより前の本文から四字でぬき出しなさい。

II 「私」はなぜこう思ったのですか。次の中から正しくあないものを一つ選り、記号で答えなさい。

あ 「私」を喜ばせようとしているお父さんの気持ちをふみにじってはいけないから。

い 心からサンタを信じていて「私」を羨ましがっている弟を、傷つけたくなかったから。

う サンタがいけないと言い張った保育園時代の友達の気持ちきもちが理解できたから。

え サンタの機嫌きげんを損ねると、本当に来年から来てくれなくなるくと考えたから。

問六 次の一文は、本文のどこに入りますか。最もふさわしい場所を **a** ~ **d** の中から一つ選り、記号で答えなさい。

きつとあんたは無邪むじや気にサンタを待つていられる子たちが羨うらやまましくてしかたなかったんだね。

問七 — 線⑤ 「持つてきたくても持つてくることのできないサンタを悩ませちやいけない」とありますが、

I ここでの「サンタ」とはだれのことですか。

II 「私」が本物のピアノを欲しがることが、なぜサンタを「悩ませる」ことになるのでしょうか。本文の言葉を使って説明しなさい。